

令和5年度
第2回匝瑳市介護保険運営協議会

議事録

日時	令和5年10月27日(金) 13:30~15:30
場所	市役所議会棟第2委員会室
出席委員 (50音順・ 敬称略)	江波戸美代、大関典夫、川名綾、熊切茂、五木田善孝、小関敬人、佐々木寛子、椎名房子、鈴木幸一、平山新治、福島俊之、守一浩
欠席委員 (50音順・ 敬称略)	澁谷晴夫、塚本繁雄、英香代子、平野茂
事務局	高齢者支援課 鈴木課長、倉地副主幹、向後主査、椎名主査 株式会社名豊 糸魚川常務取締役
次第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 (1) 令和4年度介護保険事業実績報告について (2) 第8期匝瑳市介護保険事業計画(認定・給付費)の進捗状況について (令和4年度分) (3) 第8期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画における「高 齢者福祉施策の推進」取組状況調査報告について(令和4年度 分) (4) 第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について (5) その他 4 閉 会

資料	<p>(資料1-1) 令和4年度介護保険事業概要</p> <p>(資料1-2) 介護保険特別会計歳入歳出決算額比較表</p> <p>(資料2) 第8期匝瑳市介護保険事業計画(認定・給付費)の進捗状況について(令和4年度分)</p> <p>(資料3) 第8期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画における「高齢者福祉施策の推進」取組状況調査報告について(令和4年度分)</p> <p>(資料4) 第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(案)</p>
----	--

1 開会

事務局が開会宣言を行った。

事務局が資料の確認を行った。

2 あいさつ

平山会長が挨拶を行った。

事務局が委員の出席状況を報告した。

3 議事

(1) 令和4年度介護保険事業実績報告について

事務局が説明を行った。

<質疑応答等>

A 委員：要介護・要支援認定者数が300件減っているが、高齢者の数は同じだが、この原因は介護認定が厳しくなって減っているのか。今高齢者は増える傾向にあるが、認定者が減っているのはどういうことか。

事務局：令和2年度に新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策で介護の認定有効期間を1年間延長させた時期があり、令和3年度に延長した方が更新の申請をしたため特殊要因で増えている。令和4年度は特殊要因がないため令和3年度に比べて申請件数は減っている。

A 委員：2年度に1年延長したから、4年度は減っているということか。

事務局：4年度が減ったというより、3年度が特別増えている。

A 委員：認定者数が特別減っているわけではないのか。

事務局：認定者数自体は特別減ってはいない。

A 委員：4年度の数字は2年度と同じくらいの数字ということか。

事務局：3年度と2年度を比べると増えているので、2年度と比べると4年度の認定者数は増えている。

3年度の申請件数が特殊要因で増えたため、4年度が減ったように見えるが実際の認定者数としては3年度と比べて特別減ってはいない。

B 委員：人口が 550 人減っていて高齢者の数が変わらないということは、新しく高齢者になる人と、亡くなって高齢者からいなくなる人がほぼ一緒ということか。

事務局：65 歳以上の人口は令和 3 年、4 年度あたりから減少していく推計になっている。全体の人口が 556 人減っているのは、15 歳から 64 歳以下の生産年齢人口が減っていることになる。

B 委員：出生数の減少で減っているのか。

事務局：出生数の減少もあるし、若い人が転出していることもある。65 歳以上の人口はこれから増えていかないと思われる。

B 委員：65 歳で高齢者になるが、介護保険を受ける人はあまりいない。95 歳の高齢者は、介護保険を受ける人はたくさんいる。新しい 65 歳が増えていく間は要介護が少なくなって、その人たちが 80 歳を超える頃に要介護の数が増えるのかと思ったが、超高齢者の数が減って要介護の件数が減ったわけではなく、行政が職権で、1 年間要介護度の有効期間を延長したため、件数が減ったということか。

事務局：そういうことである。

A 委員：人口が 556 人減っているが転出が 200 人くらいではないか。

事務局：正確な内訳まではわからないが、人口としては減ってきている。

(2) 第 8 期匝瑳市介護保険事業計画(認定・給付費)の進捗状況について(令和 4 年度分)

事務局が説明を行った。

<質疑応答はなし>

(3) 第 8 期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画における「高齢者福祉施策の推進」取組状況調査報告について(令和 4 年度分)

事務局が説明を行った。

<質疑応答等>

A 委員：取組項目が 84 項目は多すぎではないか。評価が 1、2 や意味のない 0 もあるので、整理をした方がいいのではないか。

シニアクラブの活動の活性化について、会員数 4,500、クラブ数 106 とあるが、名目だけのままのクラブが半分くらいあるのではないか。会員数も実際に活動していなくても市からの助成金のために人数だけのところもあるのではないか。今活動をやめているクラブも多いし、シニアでも働いていて活動に出てこない人も多いので、実数に当てはまらないのではないか。もっとしっかり調査した方がいいのではないか。

事務局：シニアクラブについては全国的にも匝瑳市も減少傾向にある。8 期の計画では会員数を増やすとなっているが、どう考えても厳しいと思われる。9 期の計画は実状に合うような計画を立てたい。補助金については、各クラブに出しているが、今までは人数割りであったが参加している人数の実態がわからないため人数割りは今年度からなくしている。現状に即した形で今後は考えていく予定である。

A 委員：八日市場は老人クラブ発祥の地であるので、老人クラブがなくなってしまうのは世間体

にも悪いと思われる。実際には役員をやる人がいなくて少なくなっているのが現状である。

C 委員：少なくなっている理由は役員になる人がいないためか。

A 委員：しょうがなく役員を受けた2、3人でやっているクラブが多い。予算を2、3人で使っていてやっているところが実情である。もっと現状を把握して、実際に何人活動しているのか調べる必要があるのではないか。

事務局：確認させていただきたい。

A 委員：84項目の見直しはしないのか。

事務局：組み直しは行っている。

会 長：評価した項目の中で3項目が0になっている。18番のその他の生活支援サービスが0になっているが実際に業者が手を挙げるのを待つという事業を想定していたのか。84番は職員が連合会に研修に行ったと説明があったが、その職員が異動になることもあるので、実際能力を発揮できるのか内部で検討していただきたい。また、この項目は国保でのレセプト点検と思われるが、専門的な比較であるので、必要のない医療情報をおかしいという判断、あるいは介護であれば介護のケアマネと行った事業との重複のチェックなど、よほどの専門的な知識がないと進められないと思われる。それを職員で行うのは酷な話であるので、この項目を残すのであればどのように具体的にしたら将来3年間で見込める形に持って行けるのか、こういう項目が必要かどうかも含めて検討していただきたい。ただ、介護保険料の減額において、国からも含めて指示があるかもしれないので、内部で検討を進めていただきたい。

(4) 第9期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

事務局が説明を行った。

<質疑応答等>

A 委員：第8期も第9期も全部コンサルに委託していると思うが、実際にいくらかかっているのか。

事務局：こちらの計画の策定について、業務委託ということで、4年度5年度の2か年合計で346万円にプラス消費税となっている。

会 長：この第9期の計画において、推計が第5章で載っていて、第4章で施策が載っているが、施策の中で人口推計などを使うのではないか。この施策を計画のどこに載せるのがいいか検討していただきたい。介護事業の中の被保険者数を含めた介護保険事業の推計は今の場所でもいいと思われるが、高齢者福祉計画に載せる施策に対する推計が今の位置でいいのか検討していただきたい。施策が先行で後から推計を載せるのであれば、後ろに添付資料としてあれば構わないと思われる。

この計画は3年というスパンで進めている中で、報告の中の実績状況で4年度でというように区切ってあり、前年は良かったが今年度はやっていないので0から4に項目が落ちたと説明があったが、実際には3年間を通じてどういう事業ができたかできなかったかという判定だと思われるので、3年、4年をトータルして第8期の計画の評価とし

て見た方が正しいのではないか。計画を作る中で委員さん含めて他の方が見て分かりやすいように考えていただきたい。

(5) その他

事務局：次回の運営協議会については12月に開催をさせていただきたい。場所については追って連絡をさせていただきたい。

5 閉会

事務局が閉会を宣言した。